

鼻のお「はな」アレルギー性鼻炎は手術で楽になる？



今回は鼻の病気、特にアレルギー性鼻炎についてのおはなしです。日本人の30～40%がアレルギー性鼻炎だと言われており、年々増加

傾向です。くしゃみ、鼻水、鼻づまりの症状が日常的にあればアレルギー性鼻炎が疑われます。現在のところアレルギー性鼻炎を根治させることは困難です（注）。基本的には症状を抑えるために内服薬や点鼻薬による治療が行いますが、手術治療によっても症状を緩和することができますので、ご紹介します。どちらの手術も鼻の中を内視鏡で見ながら行います。鼻の中以外には傷はつきませんし、鼻の形が変わるようなこともありません。

1) 下鼻甲介粘膜レーザー焼灼術（図1）

局所麻酔で日帰り手術が可能です。鼻の中に麻酔薬をつけたガーゼを当てておくと痛みはほとんどなくなります。レーザー光線によって、アレルギー反応が起きている下鼻甲介にわざとやけどを作ります。すると鼻水を作っている細胞が減り、組織が引き締まって小さくなるため、鼻水・鼻詰まりが改善します。残念ながらいつまでも効果が続くわけではなく、数年で戻ってくる方が多いのですが、その際には追加して行っても問題ありません。所要時間は30分ほどで、費用も1万円ほどです。[3割負担の場合]

2) 後鼻神経切断術（図2）

全身麻酔の手術で入院も必要になりますが、レーザーよりも高い効果がある手術です。鼻の中には奥の方から後鼻神経という神経が出てきますが、この神経が働くと鼻水や鼻づまりがひどくなるため、出てきたところで切断してしまいます。神経を切ることで鼻の中の感覚が鈍くなったり、眼や鼻が乾きやすくなったりするなどの副作用が報告されてはい

岡田 和也（耳鼻咽喉科部長）

ますが、いずれも軽度です。鼻づまりの原因となっている他の要因、すなわち鼻中隔（鼻の真ん中の仕切り）の曲がりや下鼻甲介の腫れに対しても同時に手術が行い総合的に鼻の症状を改善することができます。入院は概ね5日程度ですが、費用も含めて手術の内容によって異なりますので、まずはご相談下さい。

これらの治療を行うには、アレルギー性鼻炎の診断をしっかりつけておくことが重要です。これまで他院で検査や投薬を受けている方は、紹介状をお持ち下さい。診断がついていない場合は、診察や血液検査で診断を確定した上で検討します。ハウスダスト等一年中症状の出る通年性、あるいはスギなど特定の季節に症状が出る季節性、どちらのタイプでも効果は見込めます。どちらの手術も効果が出るまでには少なくとも1ヶ月はかかり、それまでは手術による反応で症状が一時的に悪化しますので、特にスギ花粉症の場合は花粉の飛散時期を避ける必要があります。アレルギー以外にも、副鼻腔炎など鼻の疾患はいろいろあります。耳、のどの病気なども耳鼻咽喉科で診療していますので、お困りのことがあればご相談下さい。

（注）アレルギーは体質的なものが大きく、一度発症すると症状を抑えていくしかないと考えられていましたが、スギ花粉とダニについては舌下減感作という根本治療が登場しました。残念ながら当院では行っていませんが、近隣でやっている施設をご紹介しますことは可能です。

図1 下鼻甲介粘膜レーザー焼灼術

アレルギー反応で腫れてしまっている下鼻甲介粘膜の表面を、レーザーを当てて焼き固めていきます

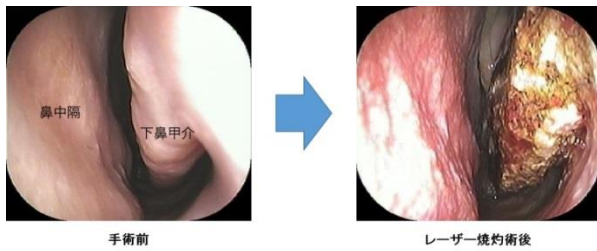


図2 後鼻神経切断術

脳から直接伸び、鼻腔奥の骨の孔から鼻の中に出てくる後鼻神経を見つけ出して切断します。(図のBの位置) 分泌神経を切ること
で鼻水が少なくなり、知覚神経を切ること
で鼻のムズムズ感やくしゃみが少なくなります。

